

飛鳥と

古きもの
・
明日のもの

2022年
春から
夏へ
No.14

高松塚古墳壁画発見50周年特別号

座談会出席者

【敬称略】

- 和田林道宜 (公財) 古都飛鳥保存財団 理事長
- 本中 眞 (独法) 国立文化財機構
奈良文化財研究所 所長
- 建石 徹 (独法) 国立文化財機構 東京文化財研究所
保存科学研究センター長
- 岡林 孝作 奈良県立橿原考古学研究所
副所長 (兼) 附属博物館 館長
- 相原 嘉之 奈良大学 准教授 (コーディネーター)

■テーマ

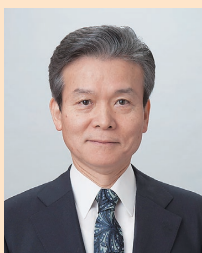
高松塚古墳壁画の発見から半世紀。
これまでの出来事を振り返るとともに
「古墳壁画の保存・活用方法」「世界遺産登録への見通しや期待」など、高松塚古墳を中心に、今後の「飛鳥・藤原の文化資産の保存と活用」について、それぞれの立場から思いや期待を語っていただきました。

高松塚古墳壁画発見50周年記念 紙上座談会

相原先生…紙上座談会にご参加いただき、ありがとうございます。今回の進行役を務めさせていただきます。奈良大学の相原です。よろしく願います。

まずは、古都飛鳥保存財団の和田林理事長から、今回の広報紙「飛鳥びと」で、高松塚古墳壁画発見50周年記念号を特集した意図をお聞かせください。

和田林理事長…昨年は当財団が創立50周年を迎え、そして今年3月に壁画発見50周年の節目を迎えました。この間にはさまざまな出来事があり、関係者のご苦労があったことと思います。当財団も壁画館を設置・運営し、幸い多くの方にご利用いただけて参りました。50周年の節目に半世紀の歩みを振り返るとともに、これから



和田林理事長

の壁画の保存と活用
のあり方や壁画館への期待などを、皆様からお聞

かせいただき、それを参考に今後の運営や普及啓発事業に努めていきたいと考えています。

世紀の大発見

—「飛鳥美人」「四神図」など—

相原先生…昭和47年の高松塚古墳で飛鳥美人(女子群像)や四神図などの壁画発見は、世紀の大発見として、マスコミで大々的に報じ

られました。考古学の記事が新聞の一面に掲載され、文化財が国民に周知された瞬間でもありました。そのときの調査には、末永先生、網干先生など、橿原考古学研究所が中心に関わっておられたと思いますが、岡林副所長、当時の経緯を、少し説明していただけますでしょうか。



西壁女子群像

岡林副所長…昭和47年の発掘調査は、明日香村史刊行事業の一環として企画されたこと聞いています。明日香村から県の教育委員会が委託を受け、橿原考古学研究所が調査を担当しました。所長の末永雅雄先生の指揮の下、秋山日出雄先生、網干善教先生、伊達宗泰先生が調査員を務められました。

石室が開口し、壁画が発見されたのは3月21日です。末永所長の判断で、内部の調査はわずか5日間で終えられ、25日には石室の入り口は厳重に塞がれました。壁画の保存を第一に考えた処置であることは言うまでもありません。石室を塞ぐために、信楽焼の陶土を買いに走った、という話を先輩方から聞いたことがあります。

末永所長は、高松塚古墳の調査・保存事業は、国全体で当たるべきとお考えでした。この方針が受け入れられ、4月5日をもって、

その後のことは文化庁に引き継がれました。

この年の10月に『壁画古墳高松塚・調査中間報告』が刊行されています。わずか半年でこの大部の発掘調査報告書を作成した仕事のスピードは、驚嘆に値します。高松塚古墳の調査研究の端緒を開いた者の責任を果たそうという、強い使命感を感じます。

相原先生…壁画の発見後、文化庁に壁画の保存事業が引き継がれます。当時、文化庁ではどういう取り組みをされたのか、本中所長、その頃状況についてお願いします。



本中所長

本中所長…文化庁では、保存に向けて応急対策調査会を設置して保存のあり方を検討し、壁画を現地保存する方針を決定、昭和51年に保存施設が完成しました。

ました。壁画発見からそれまでの間は、昭和48年に古墳が特別史跡に指定され、また昭和49年4月には壁画が国宝に指定されています。平成16年になり、高松塚古墳壁画の恒久的保存対策のための墳丘の発掘調査を奈良文化財研究所が実施しました。

相原先生…壁画館が建設されたのは、

保存施設が整備された頃でしたか？

和田林理事長…はい、昭和50年5月に起工式を挙行し、51年10月に建物竣工、52年3月に正式オープンしました。用地の買収や壁画館の建設などには、寄付金付き郵便切手による寄付金の配分をいただくことができた。同じ頃、国営飛鳥歴史公園に高松塚周辺地区が追加整備されることも決定されました。



高松塚壁画館
受付 (9:00~16:30)



高松塚古墳寄附金つき切手 (昭和48年発行)

壁画の劣化が進む

— 大きな社会問題に —

相原先生…建石センター長は平成17

年から、古墳壁画対策調査官として文化庁で直接関わってこられました。壁画の解体修理に至るまでの経過を簡単にお話いただけますか？

建石センター長…当初の壁画の修理は昭和61年に一応完了し、その後は定期点検を毎年行っていました。しかし、平成13年の石室と保存施設の接続部（取合い部）の工事などからカビが発生し、壁画の劣化も進んでいることがわかり、大きな社会問題となりました。



建石センター長

石室を解体して壁画を石材ごと取り出して

修理することが、文化庁の保存対策検討会で平成17年に決定されました。根本的な修理が必要と判明したため史跡の現地保存の原則に照らせば苦渋の選択ではありましたが、平成19年にすべての石材・壁画を取り出し、修理施設への搬入を終えることができました。

相原先生…その石室の解体に伴う発掘調査は、奈文研・檀考研・明日香村が担当しましたが、岡林副所長も参加されていたと思います。発掘調査でご苦労されたことは、何かありましたか？

岡林副所長…およそ1年の長い発掘調査でした。そのうち7ヶ月以上は、室温10℃、湿度90%に保たれた断熱覆屋の中での作業になりました。しかも、化学防護服を着て、防塵マスクとゴム手袋を着けての作業です。もちろん、壁画の保存環境維持のためですが、人間の活動環境としてはなかなか厳しいものでありました。

特別史跡である古墳の石室を解体するための発掘調査ということで、あらゆる考古学的情報を漏らさず調査し、記録することが求められました。じつに濃密で、緊張感のある発掘調査でした。さまざまな意味で、得難い経験をしたというのが率直な感想です。

相原先生…文化庁による壁画修理は十数年をかけて、かなりきれいな状態になりました。最新の技術と職人の技によって、壁画の保存・修理という国家プロジェクトが実施されたわけですね。同時に、高松塚古墳壁画の問題では、文化財保存の理念と技術、



壁画を見る子供たち

ちは
財団の活動を
います



情報公開や管理体制など様々な課題も浮き彫りになりました。

現在は壁画の修理を終えて、どのように保存・公開していくかを議論している段階だと思います。高松塚壁画のこれまでの経緯や今後のあり方について、皆様はどのように感じてもらえますか。

和田林理事長…壁画の修理が終わり、その恒久的な保存公開施設が整備されることは喜ばしい限りです。一方では、当財団が運営する壁画館との関係性をどう考えていくかという問題もあります。国により本格的な施設が整備され、小さいながらも独自の存在意義を持った壁画館との間で相乗効果が生まれるようになれば、この地域の魅力の向上にもつながるのではと期待しています。

本中所長…様々な経緯をたどり、困難な課題を乗り越えてきた高松塚古墳とその壁画です。当初の保存に対する考え方を直視できればな



高松塚古墳

らない局面もあったと認識しています。土地の一部として存在する墳丘と、影響を受けやすい希少性の高い壁画との統一的な保存のために、深い議論と実践が要ったということでしょう。保存公開施設では、そのような高松塚古墳の記念碑的な意義を広く共有できるよう適切な情報発信が求められるのだと思います。

建石センター長…守屋多々志先生を中心とした模写は大変優れたもので、それが古墳の隣接地で常設展示されていることは大変意義深いと思います。私自身の高松塚の原体験も学生時代に古墳と壁画館の模写を実見したことにさかのぼります。明日香風の中で古墳現地と模写の優品を堪能できる現状を前提として、それと有機的な関係のもと、一層の効果があがる施設を計画することが必須と考えます。

岡林副所長…高松塚古墳壁画はまさに国の至宝です。まずは確実に未来へ継承すること、これが大命題です。その実現のための調査研究を粘り強く続ける必要があります。そして、将来にわたって、できるだけ多くの人が鑑賞できれば素晴らしいですね。今後ますます進化するであろうさまざまな技術を活用すれば、ガラス越しに見るといった従来型の鑑

賞方法とはまったく異なる、近未来的な鑑賞方法も可能になるのではないのでしょうか。

文化財を「お蔵入り」させず、展示・公開を

相原先生…高松塚古墳壁画に限らず、近年は文化財を保存しながら活用することが大きな社会的関心となつてきています。和田林理事長は、文化財の保存と活用両立という問題をもどのように受け止めておられるのでしょうか。

和田林理事長…文化財を保存することは大事ですが、保存一辺倒で文化財が「お蔵」に入ってしまったままでは、長い年月の間に忘れ去られてしまっています。文化財を展示・公開することで、文化の継承、また地域の活性化にも資すると思います。古来、こういう歴史がこの地にあったということを文化財の活用により発信すべきです。

岡林副所長…奈良県では、一昨年に成立した文化観光推進法に基づき「いかす・なら地域計画」の認定を



岡林副所長

いち早く国から受けたが、その中で檀考

研の附属博物館が中核文化観光拠点施設として位置付けられています。昨年にリニューアルオープンができたばかりで、文化財の収蔵や展示とともに、地域の中で求められる役割を果たすことが、これからの博物館の業務の一つの柱となつてきています。

和田林理事長…明日香村でも同法に基づき「明日香まるごと博物館地域計画」の認定を受けられました。同計画については、「飛鳥びとNo.12」でご紹介いただきましたように、高松塚古墳など9つの世界遺産構成資産が同じく拠点施設とされています。高松塚壁画館においても、高松塚古墳と一体的な情報発信を進めていく所存です。

また、当財団では、当地における文化観光推進への寄与という目的も併せもつ「飛鳥・藤原まるごと博物館検定」を令和5年度よりスタートするため、公式テキストを4年度中に刊行します。この検定を通じて飛鳥・藤原ファンの裾野が広がってくれることを願っています。

相原先生…建石センター長は、奈良県に出向している時に、文化財の活用についても担当されていたと思いますが、いかがでしょうか？

Panasonic



私たち
古都飛鳥保存
応援して

建石センター長…明日香村は、同法の枠組みが県による「いかす・なら地域計画」と村による「明日香まるごと博物館地域計画」と二重にかかった全国でも稀有な地域です。国もそれほど期待をしているといえます。周辺地域との連携をはかりつつ、官民学、官であれば省庁を超えた連携や、国・県・村の連携等、明日香村ではすでに実現している「ボーダーレスな協業をさらに進めて」「明日香モデル」というべき実践を実現・発信できるとよいと思いますし、明日香ならそれは充分可能だと思っています。

「飛鳥・藤原」の世界遺産登録への期待

相原先生…現在、奈良県・橿原市・

飛鳥・藤原の「飛鳥・藤原の」

飛鳥・藤原の
名人紹介



「祝戸庄」の料理人として

令和3年1月末、国営飛鳥歴史公園内に佇む宿泊施設「祝戸庄」が45年の歴史に幕を閉じました。私はそこのお食事処「椎の葉」で13年間、調理に携わっていました。

やはりコロナ禍の打撃は大きく、キャンセルが相次いだ時は胸が締め付け



相原先生

桜井市、そして明日香村は、「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」として世界遺産登録に向けた動きも本格化しています。本中所長は、文化庁におられた頃に、多くの世界遺産登録に携わってこられたと思います。「飛鳥・藤原」へのアドバイスも含めて、文化財の保存と活用について、お考えをお聞かせ下さい。

本中所長…文化財の活用は力点を置く方向が強調されるのは、コミュニティにとって、文化財の価値を共有し、自らがその発信者にもなり得ることが重要だと考えられるからです

れる思いでした。

この原稿を書くにあたり、当時の事、これからの事をお話しさせてください

スタッフは村内の主婦5名でのスタートでした。まずは明日香村の郷土食を見直し、農業を営むスタッフから米やワサビ菜、紅芯大根といった珍しい野菜を調達し、地産地消に特化しました。

特に「飛鳥鍋」や「古代食・葉盛御膳」は大人気。私事で恐縮ですが、ドイツ人のお客様から「シェフを連れて帰りたい」と嬉しいアプローチもありました（笑）一緒に働いた仲間は今でも気心の許せる大切な友人です。

ね。そのような営みを通じて育まれた力は、コミュニティの持続可能性にも大きな効果をもたらすはずで

相原先生…本日は皆様、座談会へご出席いただき、貴重なご発言を賜り、ありがとうございます。

高松塚古墳壁画は、文化財保護の象徴でもありました。しかし、現地保存のため、実物を見られない至宝であったが故、国民から少し離れた存在だったのかもしれない。そこに保存技術の課題や管理体制の不備が重なって、壁画が痛んだのです。

次の運営が『星野リゾート』に決まって、内心ホッとしています。やはり明日香にこだわったお食事を提供していただきたいと思っています。

これから私のやりたい事はベトナムで楽しめる「民泊」と「古代米たこ焼き屋」をする事です。現在66歳ですが、人生はこれから（笑）

終の住処である明日香の地でこの経験を活かして、次のステップに進みたいと思います。



橋本 由美子

文化財を守りながら活用する。活用することにより守る。このことが、これからの文化財保護に求められていることです。高松塚の壁画は、まさにその使命を担った存在だと思

編集後記

今回の座談会に参加された方々の意見や思いを拝読し、この50年を思い巡らすと、胸が熱くなりました。ありがとうございます。

世紀の発見の始まりは、村人が生姜を貯蔵するための穴を掘っていたところ「カチン」と大きな石に突き当たった事が発端だそうです。

なお、『高松塚』の名称は江戸時代に墳丘の上に大きな松があったことからそう呼ばれたとか・・・鎌倉時代には盗掘されていたとか・・・そんなエピソードを伝承してくれた先人達の事も忘れてはならない、と思うのです。



諸陵考（奈良県図書情報館提供）

私は国営飛鳥歴史公園園館から高松塚壁画館まで続く遊歩道が大好きです。華やかさはないけれど、ひっそりと咲くタチツボスミレやナンバンキセルを見つけた



新子 信子



帝塚山大学
TEZUKAYAMA UNIVERSITY



奈良大学
NARA UNIVERSITY

発行・お問合せ 公益財団法人 古都飛鳥保存財団
〒634-0138 奈良県高市郡明日香村大字越13-1
TEL: 0744-54-3338 FAX: 0744-54-3638
E-mail: info@asukabito.or.jp HP: http://www.asukabito.or.jp
日本人の心のふるさと ～その保存と未来のために～